

令和5年度東京都立立川学園学校経営計画

都立立川学園
校長 市川 裕二

I 目指す学校

- 一人一人が大切にされ、安心して学べる学校
- 「学びたい」「学んでよかった」と思える学校
- 社会に開かれ、保護者、地域と協働する学校

II 中期的目標と方策

- ①全校が一体となり、併置校としての特長を発揮できる学校づくりの推進
 - ・一体感が涵養できる取組の展開
 - ・併置校の特長を生かすことができる体制の構築と展開
- ②人権を尊重した教育の充実
 - ・幼児・児童・生徒の人権に配慮した指導の徹底
 - ・自己肯定感をもつとともに、他を尊重できる心の育成
 - ・体罰及びいじめの防止、早期発見、根絶への取組の徹底
- ③安全な教育環境の整備と、安心した学校生活を送れる学校づくりの推進
 - ・安全指導と安全な教育環境づくりの徹底
 - ・災害時や不審者対応等、危機管理の徹底
 - ・感染症対策の徹底等、衛生環境の整備
 - ・医療的ケアの適切な実施と安全な給食の提供、感染症対策の取組の徹底
- ④障害に関する専門性ととともに、教科指導等に関する専門性を高め、幼児・児童・生徒がもてる能力を伸長し、生かすことができる指導の展開。
 - ・学習指導要領を踏まえた系統性、連続性のある教育課程の編成、実施
 - ・障害特性に応じた教員の専門性の向上
 - ・デジタル技術を活用した教育の推進
 - ・アセスメント等、客観的データに基づく指導の充実
 - ・学習態度の育成、個別指導計画等、家庭と連携した指導の展開
 - ・積極的な授業研究や研究活動、外部の専門家を活用した授業改善の充実
- ⑤幼児・児童・生徒の健康と豊かな心と体を育てる教育の推進
 - ・発達段階に応じた望ましい生活習慣の育成
 - ・発達段階に応じた安全教育、健康教育、防災教育の推進
 - ・幼児・児童・生徒の心身の安定を図る取組の展開
- ⑥幼児・児童・生徒が将来の姿を考え、自ら取り組む力の育成と本人や保護者が希望する

進路の実現。

- ・ 系統性、連続性のあるキャリア教育の展開と充実
- ・ 保護者へのキャリア教育に関する情報提供
- ・ 学校生活支援シートを活用した支援の展開

⑦地域との深いつながりを築き、地域とあゆむ学校づくりの推進

- ・ 特別支援教育のセンター的機能の発揮と関係諸学校への相談・支援の充実
- ・ 近隣校との学校間交流等、交流及び共同学習の推進と副籍交流の促進
- ・ 地域関係機関との連携と地域活動支援、地域貢献

⑧組織力を発揮し、教育活動を支える学校づくり

- ・ 全教職員が連携した学校運営の推進と課題の改善
- ・ ライフワークバランスを踏まえた学校

III 今年度の取組目標と方策

1 聴覚障害・知的障害教育部門の両部門の特性を踏まえつつ、学校全体の統一感の醸成

①学校全体で目的を共有した取組の展開（ポストコロナを踏まえ、両部門合同の儀式や行事の実施）

2 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実

①体罰の撲滅、人格を否定する乱暴な言動、追い込む指導等の不適切な指導の徹底的な排除（呼び捨て等の禁止、さん付けでの呼名）

②いじめ防止基本計画に基づく指導の徹底

③幼児・児童・生徒の自己肯定感を育む教育の推進

④聴部門：スクールカウンセラー、SSW の計画的な活用

3 幼児・児童・生徒が安全に学校生活を送ることができる環境の確保

①危機管理計画の確認・修正（火災・地震・災害・不審者など）と計画に基づく訓練の実施

②幼児児童生徒の緊急対応計画の確認・修正（行方不明・アレルギー・事故・医療的ケアの関する対応）と計画に基づく訓練の実施

③安全な医療的ケア実施に向けた校内体制の充実

④安全な給食の提供できる体制（アレルギー対応）の構築

⑤スクールバス増車に関わる安全な運行と緊急対応計画の確認と修正

4 改訂された学習指導要領の趣旨に基づく授業改善と幼児児童生徒の豊かな学習保障の充実

①3観点に基づく指導目標の設定、学習評価の実施

②小中高等学校との教育課程の連続性を踏まえて教育課程の改善（知的障害のある児童生徒の教育課程における教科学習の充実）；教科学習における学習習得状況の把握方法方の検討

- ③指導部研究指定：複数の障害教育部門を併置する学校の特色を活かした教育活動の展開の実施（両部門の知的障害のある児童生徒の教育課程の連携の検討）
 - ④ICT 機器・一人一台端末を活用した授業の推進と一人一台端末を活用した家庭と連携した自学自習等の学習習慣の確立に向けた試行
 - ⑤立川学習ルール（幼児児童生徒向け）立川学園の授業（教員向け）の策定と実施の徹底
- 5 授業づくりを支える教員の学びの充実
- ①O J Tによる授業研修、外部の専門家等を活用した授業改善、指導教諭の活用の推進
 - ②両部門・学部間で連携した教科学習の充実（教科部会の充実）
 - ③一人一コマ研究授業・年次研究授業・初任者研究授業の充実（計画の作成と実施）全校研修会の充実（全校で同一のテーマに基づく研修・研究活動）の計画の作成と実施）
- 6 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進
- ①幼児・児童・生徒が希望する進路の実現に向けた取り組みの推進
 - ②知識・技能の向上と定着及び各種検定の実施
 - ③進路に関わる体験等の実施
 - ④内部進学に向けた学部間の連携の充実
 - ⑤キャリアパスポートの作成を通して小学部から高等部まで連なるキャリア教育の推進
- 7 健康で豊かな心と体を育てる教育の推進
- ①基本的生活習慣の確立と体力向上の取組の推進
 - ②がん教育の実施
 - ③発達段階に応じた主権者教育の推進。
 - ④学校2020レガシーの着実な実施。
 - ⑤部活動促進・充実等、運動、スポーツに親しむ幼児・児童・生徒の育成
 - ⑥文化芸術活動の充実（東京都アートプロジェクトや全国特別支援学校文化祭等への応募の充実）
- 8 地域とのつながりを深め、地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮と強化
- ①乳幼児教育相談における地域ネットワークの構築
 - ②乳幼児教育相談の指導の充実
 - ③地域在住の聴覚障害児、知的障害児への支援
 - ④地域就学前施設等との連携の充実
 - ⑤地域小・中・高等学校との交流及び協同学習の充実
 - ⑥副籍制度を活用した居住地校との交流及び協同学習の充実
 - ⑦ホームページの迅速な更新等、教育活動の積極的な発信
- 9 ポストコロナを踏まえ、平常の教育活動の提供
- ①郊外学習、宿泊行事等の実施

②音楽の授業、水泳指導などの平常実施

10 適切な学校運営体制の構築

①学校経営計画に基づく計画的、合理的、効率的な予算執行

②会議時間短縮を図る会議運営

③電子決算の実施とICT機器を活用したペーパーレス化の促進

④執務環境の整備

⑤コンプライアンスの徹底

⑥学校組織改編に伴う効率的な学校運営

重点目標と方策(数値目標)

項目	内容	数値目標
1 聴覚障害・知的障害教育部門の両部門の特性を踏まえつつ、学校全体の統一感の醸成	管理職・主幹教諭による学校全体の方向性について検討する 「経営会議」の開催	月1回の開催
2 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実	人権教育に関する研修会の実施	年間3回開催
	児童・生徒アンケート及び聞き取り調査によるいじめの実態把握	年1回以上
	学校評価アンケート「楽しい学校」の高評価	保護者：90%以上 児童生徒：90%以上
3 幼児・児童・生徒が安全に学校生活を送ることができる環境の確保	避難訓練等（危機回避訓練）の実施と企画調整会議による反省・検討	月1回以上
	アレルギー対応研修会	各学部1回
	医療的ケア対応研修会	年間1回
	緊急対応訓練	年間1回
	学校評価アンケート「防犯・防災・安全指導の適切な実施」の高評価	保護者：90%以上
4 改訂された学習指導要領の趣旨に基づく授業改善と幼児児童生徒の豊かな学習保障の充実	校内研究会の実施	学期3回以上
	学校評価アンケート「わかりやすい授業」の高評価	保護者：90%以上 児童生徒：90%以上
5 授業づくりを支える教員の学びの充実	一人一コマ授業の実施	100%

	両教育部門をまたがる授業研究の実施	年間1回以上
6 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進	全ての児童生徒に「キャリアパスポート」の作成	100%
	学校評価館ケー「社会参加を見通した進路指導」	保護者：75%以上 児童生徒：90%以上
	各種検定の実施	年間3種以上
7 健康で豊かな心と体を育てる教育の推進	スポーツか大会への参加	3大会以上
	全国特別支援学校文化連携文化祭や東京アートプロジェクト等への作品出展	8作品以上
	がん教育の実施	年間1回以上
8 地域とのつながりを深め、地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮と強化	ホームページの更新	年間24回以上
	摂食指導、アレルギーに関する研修会の実施	年3回以上
	医療的ケア及び重度・重複障害のある児童生徒に関する研修会	年3回以上
	ヒヤリハット事例を活用した事故防止研修会の開催	年2回以上
9 ポストコロナを踏まえ、平常の教育活動の提供	年間指導計画の完全実施	100%
10 適切な学校運営体制の構築	本校既定のクリーンデスク達成率の向上	100%
	自律経営推進予算センターの高執行率の維持	50%以上